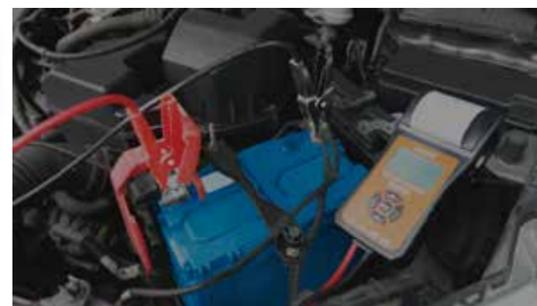


バッテリー診断の強力サポーター

# バッテリーテスター

VAT-650BZ



- 持ち運びやすい軽量・コンパクトデザイン!
- 約2秒のスピーディーな印刷でお待たせしません!
- 一般的な鉛バッテリーをはじめ、様々なバッテリーに対応
- CCA 値を入力しての計測も可能!
- 逆接保護機能搭載でテスター本体の損傷を防止!
- ケーブル長は 1m、狭い場所にもアクセス良好!
- 電圧だけでなく、バッテリーの状態も診断!

4 本同時メモリー表示付き タイヤ残溝ゲージ

# タイヤトレッド デプスゲージ

TDG-415U



- 計測した 4 本分のデータを一画面で同時表示!
- 胸ポケットに収まる軽量コンパクト設計!
- 内蔵 USB 端子から記録データを出力可能!  
(エクセルおよびワードへ転送可能)

▲安全に関するご注意・ご使用前に「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくご使用ください。(型式・仕様は予告なく変更することがあります。)

# BANZAI NEWS

2025  
Summer  
335

特集  
BANZAI NEWS

既存のお客様に「安心」を  
提供できるサービスショップへ



**BANZAI** 株式会社 バンザイ

<https://www.banzai.co.jp>

本社  
東京都港区芝2-31-19  
TEL 03-3769-6880  
E-mail: eigy@banzai.co.jp

営業部  
東京都港区芝2-31-19  
TEL 03-3769-6881

海外販売部  
東京都港区芝2-31-19  
TEL 03-3769-6894



札幌支店  
札幌市西区24軒1条7-3-10  
TEL 011-621-4171

仙台支店  
仙台市宮城野区福室2-8-21  
TEL 022-258-0221

関東支店  
埼玉県北本市朝日4-553  
TEL 048-590-3700

東京支店  
東京都港区芝2-31-19  
TEL 03-3769-6840

名古屋支店  
名古屋市中区千種区青柳町6-26  
TEL 052-732-2600

大阪支店  
大阪市長田東3-3-11  
TEL 06-6744-1041

広島支店  
広島市西区南観音2-7-10  
TEL 082-233-3201

福岡支店  
福岡市博多区那珂5-3-15  
TEL 092-411-1261



ISO9001認証取得  
ISO14001認証取得  
バンザイは SDGs を推進する  
日本ユネスコ協会連盟の維持  
会員として支援しています。



伊良部大橋 沖縄県  
 伊良部大橋は、沖縄県宮古島と伊良部島を結ぶ全長3,540メートルの橋で、2015年1月に開通。無料で渡れる橋としては日本最長を誇り、橋の上からはエメラルドグリーンに輝く宮古ブルーの海が一望できる。観光客のドライブやサイクリングの人気スポットだけでなく、地元の人々の生活を支える重要な交通インフラでもある。

### ★歳時記

7月	7日	七夕
	21日	海の日
8月	6日	広島平和記念日
	7日	立秋
	9日	長崎平和記念日
	11日	山の日
	15日	終戦記念日
9月	16日	敬老の日
	23日	秋分の日



### ●目次

#### ★特集

カーオーナーに「安心」を提供できる  
 持続可能なサービスショップとなるには?.....①  
 【第2回】「トータルエイミング」の実践で  
 現行車オーナーの「安心」を獲得

#### ★モデルショップ訪問

【島根日野自動車株式会社 鳥取支店】.....⑥  
 過酷な自然環境下でも安全快適に作業  
 できる最新鋭のサービス工場へト一新

★第38回オートサービスショー2025開催.....⑩

★【MSC感動夢工場 第4回定時総会・第7回研究会】.....⑭

★ショールーム.....⑯

★ロータリー.....⑳

★BANZAIガイド.....㉑



カーオーナーに「安心」を提供できる  
 持続可能なサービスショップとなるには?

第2回 「トータルエイミング」の実践で  
 現行車オーナーの「安心」を獲得



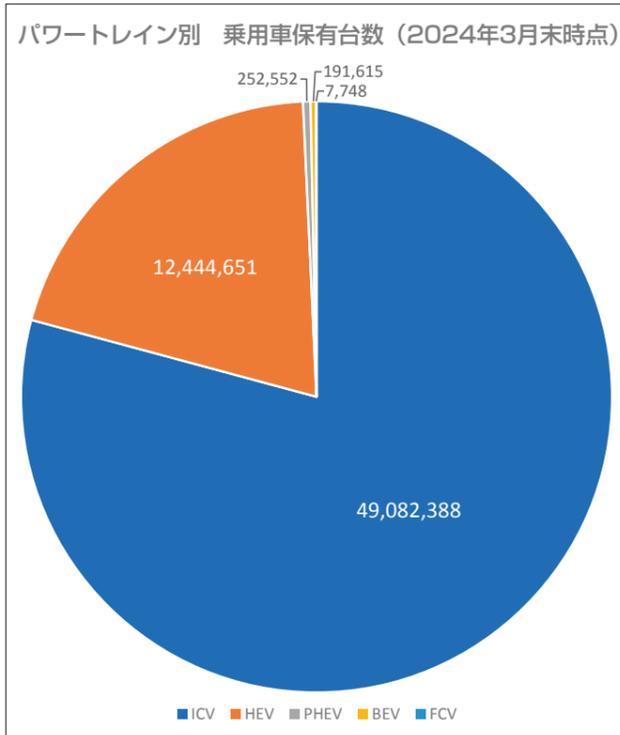
CO<sub>2</sub>排出量削減・環境負荷低減の寄与度が現実的には最も高く、またコスト面でも比較的有利とされるHEV(ハイブリッド車)およびPHEV(プラグインハイブリッド車)。日本での保有台数は約1300万台と全体の約1/8程度ですが、登録乗用車の新車販売においてはすでにICV(純エンジン車)のシェアを上回っています。またADAS(先進運転支援システム)をはじめとした自動運転技術の進化・普及は電動化技術よりも早く進んでおり、衝突被害軽減ブレーキの新車装着率は100%に迫りつつあります。

当連載「カーオーナーに「安心」を提供できる持続可能なサービスショップとなるには?」、2回目の今回は、現在進行形で保有台数が増え続けているHEV/PHEVや、ADASを搭載する現行車オーナーをいかに増やし、守っていくかを、考えていきたいと思います。

## 新車販売の主力となった HEV/PHEVへの対応は不可避

前回の当特集では、日本国内の保有ベースではICVが今なお圧倒的主流で、とりわけ乗用車では約8割のシェアを握っているものの、電動車の普及は緩やかに進行していく可能性が高いことをご説明しました。

自動車検査登録情報協会(自検協)「わが国の自動車保有動向」によれば、2024年3月末時点の国内自動車保有台数は全体で8256万8673台。このうちHEVは1257万2826台、PHEVは25万2913台、合わせて1282万5739台。HEVとPHEVのシェアは約1/8となっています。



パワートレイン別・2024年3月末時点の乗用車保有台数(出典:自動車検査登録情報協会「わが国の自動車保有動向」)

では、乗用車に限定するとどうでしょうか? 同じく乗用車全体の保有台数は6197万8954台で、このうちHEVは1244万4651台、PHEVは25万2552台、合わせて1269万7203台で、乗用車の5台に1台をHEV/PHEVが占めているのです。

従って、乗用車を中心に扱うサービスショップの皆さんは、主な入庫車両のブランドにもよりますが、HEV/PHEVをすでに日常的に整備していることと推察されます。

さらに乗用車の新車販売、中でも登録車に限っては、HEV/PHEVの普及が加速度的に進行しています。日本自動車販売協会連合会(自販連)が発表している乗用車の燃料別登録台数によれば、暦年ベースで2021年まではICV(同統計上はガソリン、ディーゼル、その他の合計)の方がHEV/PHEVを上回っていました。しかし、それ以前よりガソリン車の減少傾向とHEVの増加傾向が続いており、2022年にはHEVがガソリン車を逆転。これに伴いHEV/PHEVもICVの販売台数を上回り、2024年にはHEV/PHEVの販売台数がICVの2倍弱にまでその差が広がっています(詳細は別表)。それは、近年の新型車がICVよりもHEV/PHEVを主力グレードに据えたり、モデルライフ途中でICVの設定を廃止したりする動向からもうかがえます。

こうした傾向は、自動車メーカーにとっては、LCA(ライフサイクルアセスメント)やwell-to-wheel(油田から車輪まで)、つまり車両の生産から使用、廃棄、リサイクルまでのライフサイクル全体に加え、燃料や電気の製造・供給プロセスを含めたCO2排出量削減・環境負荷低減において、現実的にはHEV/PHEVが最も寄与度が高く、CAFE(企業別平均燃費基準)規制をクリアするうえでもICVより有利であること。また、今やICVより高い収益を得られること。カーオーナーにとっては、とりわけHEVはICVとの価格差が比較的小さく、燃費が良く、快



メカニックの感電事故を防ぐ「低圧絶縁衣」「低圧ゴム手袋」「低圧絶縁ズボン」



「絶縁工具セット」(右)をはじめとした各種絶縁ツールを多彩にご用意



駆動用バッテリーが発火した際の延焼を防ぐ「ファイヤーブランケット」

適性が高いなどのメリットが、その背景にあると考えられます。

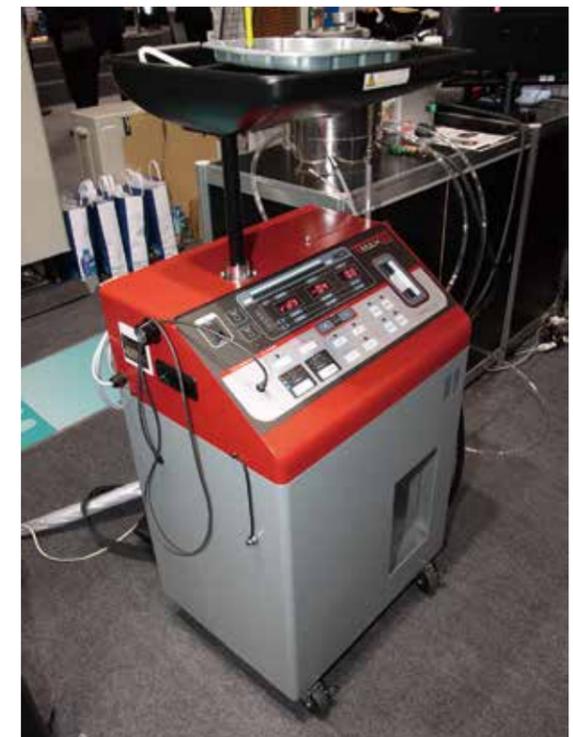
つまり、HEV/PHEVの販売・保有台数は今後も増加し続け、皆さんのサービスショップへ入庫する頻度も上昇していくことはほぼ確実。HEV/PHEVの点検整備・修理に対応することは、持続可能なサービスショップとなるうえで、最早避けられない情勢なのです。

さらに言えば、整備・修理のみならず新車や中古車などの販売にも注力するトータルサービスショップの皆さんが、カーオーナーの新車販売→点検整備→下取りor残価設定型クレジットでの引取→新車代替&中古車販売、のサイクルを形成・維持するうえでも、販売・入庫の主力であり収益性も高いHEV/PHEVが中心となります。

ですから、HEV/PHEVの点検整備、車体修理、リサイクル、いずれを行うにしても、メカニック全員が低圧電気特別講習を受講し、絶縁工具や低圧絶縁衣など保護具を完備することは必須。またHEV/PHEVは五感に頼った故障診断が近年のICV以上に困難な実情を鑑みても、スキャンツールの導入とその活用スキル習得も必要不可欠です。

加えてHEV/PHEVの場合、ICVと同様に定期的なメンテナンスが必要となるオイルなど油脂類、タイヤ、補機バッテリー、ブレーキなどの消耗品は、相性の良い製品や、適切な交換方法・サイクルなどが、ICVと異なる場合もあるため要注意です。

バンザイでは、サービスショップの皆さんがHEV/PHEVの整備・修理にきめ細かく対応できるよう、絶縁工具・保護具やスキャンツール、オイルチェンジャーなどを幅広く取り揃えております。詳しくはバンザイ営業スタッフへお気軽にお問い合わせ下さい。



レベルゲージレス/付きAT/CVT/ハイブリッドトランスアクスルのいずれにも対応する、ATF&CVTフルードチェンジャー「T-MAX1100」

■乗用車燃料別登録台数の推移 注:単位は台。軽自動車は含まず。

	ガソリン車	ディーゼル車	LPG車など	ICV計	HEV	PHEV	HEV/PHEV計	BEV	FCV	ZEV計
2020年	1,380,762	147,503	186	1,528,451	920,275	14,741	935,016	14,604	761	15,365
2021年	1,183,129	143,088	161	1,326,378	1,027,104	22,777	1,049,881	21,139	2,464	23,603
2022年	938,750	125,200	64	1,064,014	1,089,077	37,772	1,126,849	31,592	848	32,440
2023年	948,455	146,164	99	1,094,718	1,460,133	52,143	1,512,276	43,991	422	44,413
2024年	791,128	111,226	81	902,435	1,542,784	43,132	1,585,916	34,057	697	34,754

乗用車燃料別登録台数の推移(出典:日本自動車販売協会連合会)



「検査用スキャンツール」と「整備用スキャンツール」双方の要件に適合する一体型スキャンツール「MST-8R」



分離型スキャンツール「MST-nano2」。「検査用スキャンツール」と「整備用スキャンツール」双方の要件に適合

## 「トータルエイミング」実践で 収益拡大と「安心」獲得を両立

このように電動化が着実に進む一方、現行車種を含めた近年のモデルではもう一つ、劇的なスピードで進化・普及が進んでいる技術があります。それは、ADAS（先進運転支援システム）をはじめとした自動運転技術です。

こちらは交通事故による死傷者の低減や物損被害の軽減に大きく寄与し、政府も各種法令を強化し普及を後押ししたこともあり、電動化よりもむしろ早く進化・普及が進んでいます。

2017年の「サポカー」制度創設、2020年4月の「分解整備制度」から「特定整備制度」への移行、2021年10月の「OBD点検」開始、同年11月の衝突被害軽減ブレーキ搭載義務化、2022年5月の後退時車両直後確認装置（バックカメラなど）搭載義務化、そして2024年10月の「OBD検査」開始といった一連の動きは、そうした流れを決定づけたものと言えるでしょう。

サービスショップの皆さんは、これら法制度の改定に合わせて、特定整備制度における電子制御装置整備認証の取得や、整備用・検査用スキャンツールの導入、さらには各種エイミングツールやターゲットなどの導入にも踏み切ったケースも考えられます。

しかしこれらの機器類は、初期の導入費用こそ決して少

額ではありませんが、有効活用し作業効率を高められれば、台当たり単価の高い高収益なサービスメニューとなります。

とりわけ、飛び石によるひび割れが発生しやすいフロントガラス（windシールド）には前方検知用カメラ、事故のみならずカスタマイズにおいても脱着の頻度が高い前後バンパー・グリルにはミリ波レーダーやソナーが装着されているため、脱着・交換の際にはこれらADAS用センサーのエイミングが不可欠です。またそれら作業を事業として行うためには、電子制御装置整備認証の取得が法的に義務付けられています。

しかも、自動車メーカーのサービスマニュアルに記載されている、より多くのサービスショップで実施可能な手法に厳密に従った部品脱着・交換やエイミングを行えば、多くの作業時間を要するため、工賃も高く設定される傾向にあります。

ですので、部品脱着・交換やエイミングの作業効率を劇的に高めてくれる各種ツールを導入し有効活用すれば、短時間で多くの台数を整備・修理可能になるため、サービス収益向上に大きく寄与します。

そして大事なポイントは、サービスショップの皆さんの収益拡大だけではなく、カーオーナーの安全を守り「安心」を提供するには、単に部品脱着・交換やセンサー類のエイミングだけではなく、ボディ・シャシー全体も点検整備することでADASの正常作動を確認する「トータルエイミング」が必要だということです。

どれほどセンサーのエイミングを厳密に行っても、各輪のタ

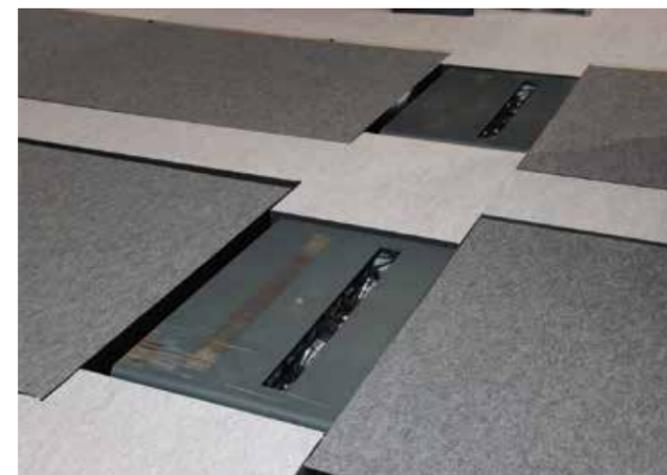
イヤ空気圧やホイールアライメント、さらには各輪のサスペンションを支えるボディの寸法が狂っていれば、車両は正しく直進しません。それどころか、ADAS用センサーが隣車線の車両などを誤って検知し、ADASの誤作動を引き起こす危険性すらあります。



ホイールへのターゲット装着が容易になったホイールアライメントテスター「Q.Lign」

そうしたリスクを未然に防ぎ、ADASが完全に機能することを確認できる状態でカーオーナーに納車することは、カーオーナーに「安心」を提供し信頼を勝ち取るのみならず、サービスショップの皆さんのさらなる収益拡大、ひいては持続可能性確立にも結実することでしょう。

今回は、走行中に排ガスを出不さない「ZEV（ゼロエミッションビークル）」に位置付けられるBEV/FCV（バッテリー式電気自動車/燃料電池車）をテーマとして、今後の普及が見込まれるZEVオーナーの「安心」をいかに獲得するかを考えたと思います。



測定ユニットの上を四輪のタイヤが通過するだけでタイヤ残溝を測定できる「イージートレッド」

### トータルエイミングが重要

▶ これからの車体完成検査の流れ（エイミング作業が発生する修理を行った場合）

<b>外観検査 故障診断</b>	<b>ボディ 計測</b>	<b>タイヤ 空気圧調整</b>	<b>ホイール アライメント計測</b>	<b>エイミング 作業</b>	<b>試運転 故障診断</b>
ウィンドシールドガラスの汚れなどは清掃 故障コードはないか確認	3次元ボディ計測で車体中心線のずれはないか確認	タイヤ空気圧を規定値に調整	アライメントテスターでスラストラインのずれはないか確認 基準値に入っているか確認	専用ツールとスキャンツールで作業	故障コードはないか確認 一般道、高速道路で各機能が働くかどうかの確認

エイミング完了後にレポートを作成出来るスキャンツールなど、様々なスキャンツールのご用意もございます。

はじめに  
ASVにおけるエイミング作業は、これから増えて通れない作業のひとつとなります。なお、車体整備の完成検査としては、エイミング作業を含む、ホイールアライメント、ホイールアライメントなどが正常な状態であることを確認することが重要となります。

**レポートイメージ**

バンザイが提唱する「トータルエイミング」の作業フローと代表的整備機器

# 過酷な自然環境下でも安全快適に作業できる最新鋭のサービス工場へと一新



奥行き5mにも及ぶ雪よけ用ひさしが建物全体に設けられた島根日野自動車株式会社 鳥取支店の外観。夜間は白とアンバーのLED照明で美しくライアップされる



常務取締役  
サービス部長  
清水 秀男 氏

鳥取支店  
支店長  
下田 隆博 氏

鳥取支店  
工場長  
石原 秀司 氏

島根県および鳥取県全域を商圈とする島根日野自動車株式会社が2023年6月より、鳥取支店の営業を継続しながら、工期を3期に分ける形で、順次リニューアルを開始。第3期工事終了後の2025年6月より、SDGsに最大限配慮した新工場の本格稼働を開始しました。

## 砂地・豪雪・酷暑対策のためお客様の稼働を止めずに一新

島根日野自動車株式会社が設立されたのは1953年。その70年以上にわたる歴史の中で、鳥取支店も交通の便が良い県道156号線沿いに拠点を構えたのは1979年と、50年弱の間、地域の物流事業者を足元から支え続けてきました。

しかし、市内に鳥取砂丘を擁する鳥取支店は砂地の上にあり、「地盤が緩く、経年変化で地盤沈下もするため、地面を平らにする必要がありました」（石原工場長）。また、「当時のトラックは大きくとも8tでしたが、現在は12tまであります。これを充分にリフトアップしようとする天井に当たるため、メカニックはしゃがんで作業せざるを得ませんでした」（清水常務取締役）。さらに、「鳥取県内は全域が豪雪地帯で、冬場は雪を載せた車両が入庫する」（同）ためその対策も必要な



事務所にもLED照明を多用し明るくモダンな雰囲気



整備工場・中2階の休憩室には更衣室やシャワールームを完備



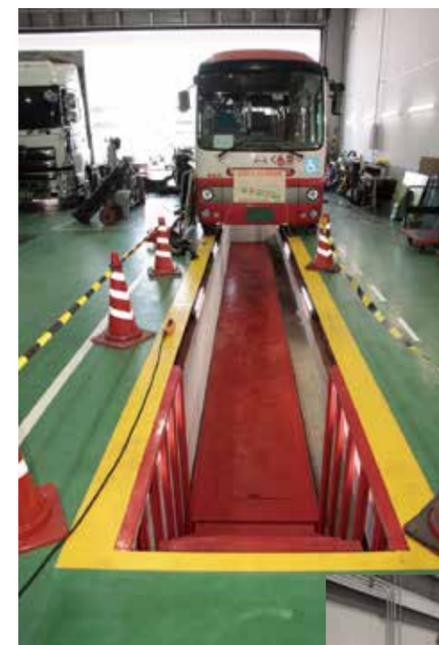
うえ、近年は夏場に最高気温が40℃近くに達するため、メカニックの暑さ対策は急務でした。

これらの背景から、同社は「お客様にとって便利な場所にあり、また『お客様の稼働を止めない』ため、費用は多くなるものの移転せず、既存の建物を活かし、整備工場も完成検査場を含め稼働させながら、工期を3期に分けてリニューアルすることを決定」（同）。さらに、清水常務取締役がかねてより決めていたという、「1.（安全）メカニックの労働環境改善、2.（品質）サービス品質の向上と作業効率アップ、3.（コンプライアンス）正しい仕事」のコンセプトに沿ったサービス工場を、新たに建築しています。

## 安全・品質・法令遵守に寄与する設備を積極導入

新サービス工場は「完成レーン」（完成検査場）と3つの「車検レーン」（車検整備中心のピット）、3つの「整備場」（クイック整備中心のピット）、「洗車場」、「钣金場」、「塗装場」の全10レーンで構成。このレーン数自体は従来の整備工場と同じですが、各レーンの幅を5mから6.5mへと大幅に拡大したほか、建物の出入口側全体に5mのひさしを設けることで、降雨・降雪時を含めた安全性と作業効率の向上を図りました。

さらに、各「車検レーン」と出口側2カ所の「整備場」の間には、大風量スポットエアコン「スポットバズーカ」を計4基導入。3カ所の「車検レーン」には能力16t + 16tの2柱キャタピラ式リフト「キャタピラツインエース」と能力15tの1柱リフト「スーパープラトンビッグ」を組み合わせました。これにより、1レーンで小型および中型トラックの2台同時に作業可能としたほか、各リフトの下側にLED照明を内蔵して、「リフトの下で作業する際、ハンディライトで片手をふさぐことなく安全に広い視野を得ることができる」（清水常務取締役）よう配慮しています。



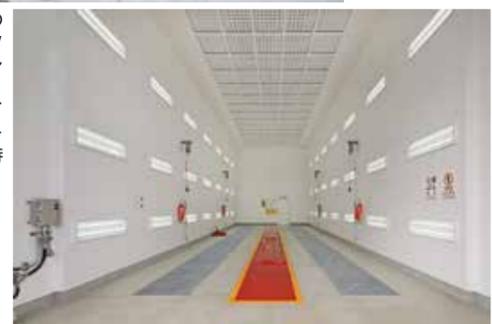
事務所に最も近い1番の「整備場」には「フロアーリフト」を導入しクイック整備に対応



「钣金場」にはフレーム修正機の前にLED照明付き「スーパープラトンビッグ」を配置



建屋一体型の「塗装場」。「ツインエース」はシンダーへのミスト対策として伸縮保護カバーが装着された特注防爆仕様



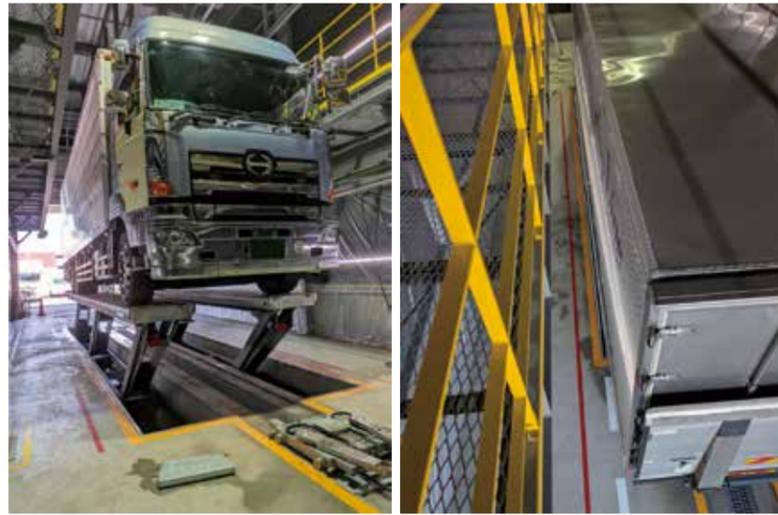
「完成レーン」には車検時の転落防止と作業効率アップに寄与する「フロアーリフト」と合わせ、左右分割式のサイドスリップテスター「WGT-1000BD」を導入。さらに、検査業務効率化システム「ネットワークシリー

ズ」に、自動で入庫車両の写真を撮影・保存できる「フォトサーバー」を組み合わせ、コンプライアンス対応を強化しました。

「洗車場」には、車両を乗り入れたらそのままリフトアップできるうえ、下回り洗浄が容易な床式リフト「ベガリフト」に、下部洗浄機「ポートウォッシャー」の移動式、高圧温水洗浄機「ナイスホット」の省エネタイプを導入。さらに、高所作業用のキャットウォークには、転落防止の安全帯を装着できるよう「エスコートレール」を敷設して、車両に積もった雪を安全に除雪可能としています。

建屋一体型の塗装ブースとした「塗装場」には、能力15t + 15tの2柱リフト「ツインエース」の特注防爆仕様を導入し、豪雪地帯で需要の多い下回り防錆塗装を効率化。「钣金場」には埋設レール式フレーム修正機の前側にLED照明付きの「スーパープラトンビッグ」を配置して、「損傷頻度が高いフロントまわりの補機類脱着などを容易にしました」(清水常務取締役)。

そして事務所には、SDGs(持続可能な開発目標)に沿うよう、外断熱工法などを採用し、空調効率を大幅に改善しています。夜間には白とアンバーのLED照明で美しくライトアップされる鳥取支店。同社と地域社会をより一層明るく照らす存在となることが期待されています。



雪が付着した車両も「ベガリフト」(左上)でそのままリフトアップし、「エスコートレール」を完備したキャットウォーク(右下)からルーフを、移動式「ポートウォッシャー」(左下)で下回りを洗浄できる「洗車場」。キャットウォークから見た車両のルーフ(右上)



6番「整備場」の「フロアーリフト」は工場奥側が広く取られたバス対応タイプ 40℃弱の酷暑でもメカニックに強力かつ快適な冷風を届ける「スポットバズーカ」



8・9・10番の「車検レーン」には「キャタピラツインエース」と「スーパープラトンビッグ」を組み合わせ、小型および中型トラックの2台同時車検整備に対応



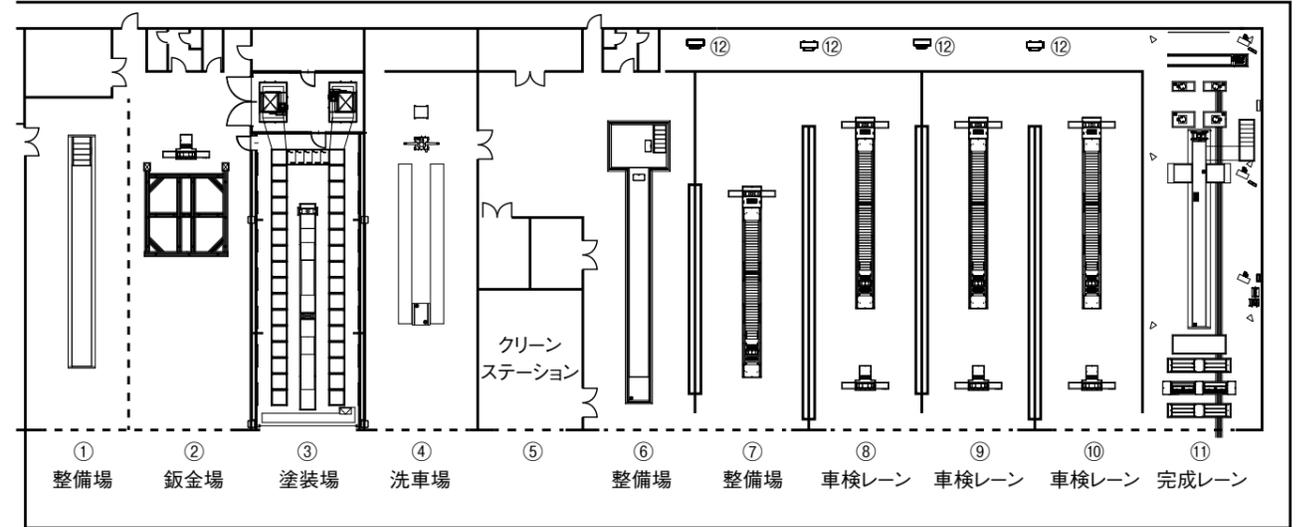
安全に検査できる「フロアーリフト」を備えた11番の「完成レーン」には「フォトサーバー」も導入し、コンプライアンス対応強化と作業効率の改善を両立した

## 店舗概要

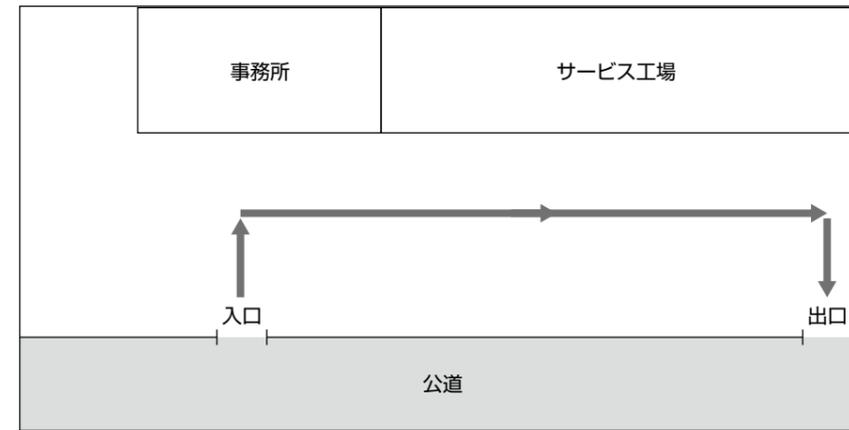
車検入庫車両への対応能力を最大限強化  
しつづ钣金塗装やクイック整備にも対応

- 所在地：鳥取県鳥取市湖山町東4丁目15
- スタッフ数：30名(うちメカニック15名)
- 電話番号：0857-28-4821
- 敷地面積：2,202坪(7,268.46㎡)
- 店舗設立：2025年6月
- 工場面積：980坪(3,234.99㎡)

## 工場レイアウト詳細



## 店舗全体図



## 設備一覧

- ①フロアーリフト
- ②スーパープラトンビッグ  
埋設レール式フレーム修正機
- ③建屋一体型塗装ブース  
ツインエース・特注防爆仕様
- ④ベガリフト  
ポートウォッシャー・移動式  
ナイスホット・省エネタイプ  
エスコートレール
- ⑥フロアーリフト・バス対応タイプ
- ⑦キャタピラツインエース  
(LED照明付き)
- ⑧⑨⑩キャタピラツインエース  
(LED照明付き)  
スーパープラトンビッグ  
(LED照明付き)
- ⑪ネットワークシリーズ  
画像手動式ヘッドライトテスター  
ターニングラジラスゲージ  
フロアーリフト  
サイドスリップテスター  
重量計  
アイドルローラー  
コンビネーションテスター  
フォトサーバー
- ⑫スポットバズーカ×4

# 第38回 オートサービスショー2025開催!

バンザイブースへご来場いただき誠にありがとうございました!

1948年の第1回「自動車整備用機械工具実演展示会」をルーツとする自動車整備・検査機器の展示会「オートサービスショー」(主催:日本自動車機械工具協会(機工協))が、2025年6月19日から21日までの3日間、東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催されました。

バンザイは今回、「変化を楽しみ そして未来へ ~変わらないもの Peace of mind (安心) ~」をテーマに掲げ、屋内1320㎡・屋外108㎡の大規模なブースを展開。カーオーナーの「Peace of mind (安心)」と持続可能なサービスショップをともに具現化できる、最先端の整備機器を数多く出品のうえ、総計11におよぶ各コーナーで実機を用いた作業実演やプレゼンテーションを行いました。



出入口側にサイズの小さな製品、奥側に大きな製品が配置され、ブース全体と各製品が一望できるバンザイブース全景。通路が広く取られ、移動も製品の確認も快適かつスムーズに。



## 車検機器・車検システム

ますます多様化が進む自動車技術にいち早く対応しつつ、ヒューマンエラーを未然に防ぐ仕組みを導入したテスター類を展示または参考出品。検査業務の効率化を提案しました。



プレゼンテーションでは型式申請中の「スマートスピードメーターテスター」と「新型トリプルテスター」を用いた迅速で正確な車検を実演。



審査事務規定第57次改正に即したロービーム計測にも対応するヘッドライトテスター。



バンザイオリジナルの最新型スキャンツールとバッテリーテスター、ポータブル充電器。

## 環境・カーボンニュートラル

CO<sub>2</sub> 排出量削減のみならずメカニクスの快適な作業環境構築にも寄与する空調機器や遮熱塗料・遮熱シートなどを出品。会期中は連日真夏日で、効果をより強く実感いただけました。



個別空調「マルチキューブ」を受付付近に配置して来場者に快適な冷風でおもてなし。



遮熱塗料「ミラクール」と、輻射熱を防ぐ「IS遮熱シート」の効果をデモ装置で実証。



空調効率アップのほか虫やホコリの侵入防止にも寄与する「高速シートシャッター」。



真夏日が続いた会期中を通じ、バンザイブースでは明るい笑顔、涼しいエアコンの風で来場者をお出迎え。BANくんとびちゃんくん、二人のキャラクターの共演も!



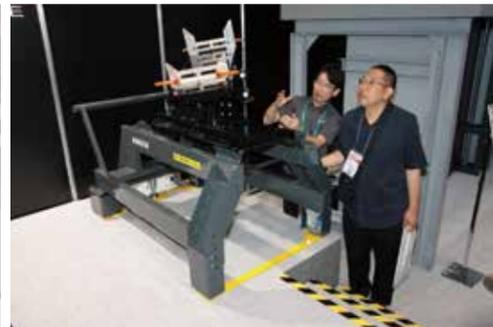
機工協会長としてオートサービスショー開会式で主催者挨拶を述べる柳田社長。



各省・団体の来賓を交えたテープカットによりオートサービスショーが開幕。

## ■ リフト

BEV（電気自動車）の普及が緩やかに進みながら当面はICV（内燃機関車）やハイブリッド車が残る状況を見据え、幅広い車両・パワートレインに対応できるリフトを提案。



上部のアタッチメントを交換すればBEVバッテリーもICVのエンジン・トランスミッションも脱着できる「ユニバーサルマルチリフター」（参考出品）は電動走行式に進化。

揚程1,800mmの「新型乗用車リフト」は埋設シリンダー&メカロックが見える形で参考出品

## ■ 大型車整備機器

ドライバー、メカニックとも人材不足が日増しに深刻化し、自動運転技術を中心に高度化も進む、大型車の点検整備省力化を訴求。



トラクターのバルーンを載せた、設置工事が不要な「モバイルコラム」に来場者が注目。



バスを中心に普及が進む大型車用ATのフルード交換を大幅に省力化する「T-MAX1100CV」

## ■ タイヤ機器

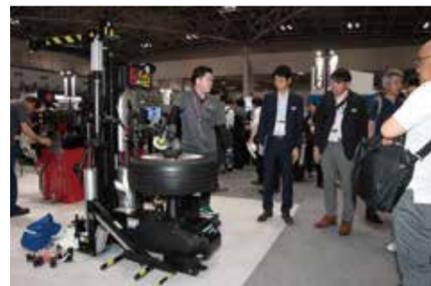
SUVやBEVの普及とともに大径低偏平化が一層進み、難易度が高まったタイヤ・ホイールの交換・調整作業を自動化、さらに高精度かつ安全で損傷リスクも少ない最新機器を紹介。



プレゼンテーションでは参考出品の全自動ホイールバルancer「GEO-8200P」で真円性判定を実演。



「音声ナビ付きホイールバルancer」に実装された声優・上杉夏穂氏の美声に傾聴。



レバーレスタイヤチェンジャー「MON-8800P」での素早い低偏平タイヤ交換作業に注目。

## ■ 板金・塗装機器

電動化・自動運転技術の充実に伴い軽量素材が積極的に採用されている最新モデルでも高い精度・品質で修理できる機器類を提案。



0.1mm単位の変形も画面に表示できるコンピューター車両計測器「セレット・ナジャ3D」。



溶接条件を自動設定でき超高張力鋼板にも対応する「インバータスポットNex Gen」。

## ■ トータルエイミング

ADAS（先進運転支援システム）の正確な作動に必要な、各種センサーやタイヤの状態、ホイール・ボディアライメントの測定・調整を高速・高精度化する最新機器を披露。



車両を通過させるだけで外装全周を確認できる「ADIBeeクルスキャナー」を参考出品。



「Q.Lign」でのトータルエイミング実演が注目の的。

## ■ 安全推進

整備機器の取扱不良・点検不履行による事故防止に加え異常気象による労災の抑止も訴求。



整備機器点検の要点をパネルや動画で紹介、「熱中症予防表示版」で会場内の状況を表示。

## ■ 門型洗車機・洗浄機器

一度付着すると落としにくい汚れを安全かつ効率良く除去できる門型洗車機と洗浄機器を新たに提案、熱中症対策の体験コーナーも。



「エミネントデルタ2」の参考オプションとして花粉除去モードと純水洗車モードを実演。



工場内への放射熱を97%防ぐ「IS遮熱シート」をテント裏に施工して暑さ軽減効果を体感。

2025年6月19日(木)・20日(金)

## MSC 感動夢工場 第4回定時総会・第7回研究会



日本全国の整備事業者が加盟する自動車整備団体、MSC 感動夢工場は2025年6月19日(木)に第4回定時総会と第7回研究会を相鉄グランドプレッサ東京ベイ有明にて開催しました。翌20日(金)は、2年に1度開催される国内最大級の自動車整備機械工具ショー、「第38回オートサービスショー2025」を見学する等、2日間に渡って活動を行いました。

深刻な人手不足など、様々な課題が自動車整備業界に立ちのぼる中、総会・研究会に出席した14社18名の各社会員は講演の聴講、情報交換を行うなど、充実の会合となりました。

### 挨拶 | 指定規則改正への危機感を共有 MSC 感動夢工場 小川慶一会長



総会・研究会に先立ち、開会の挨拶を述べた小川慶一会長は「自動車整備士技能検定規則等の一部を改正する省令案」について言及し、会員各社への理解を求めました。

整備士技能検定規則や特定整備事業

場が備える整備機器の改正などが緩和されたことばかりがクローズアップされているが、小川会長は「一番大きな課題」として「指定規則の改正」を挙げ、同改正案についてはさらに議論する余地がある旨を示しました。

今回国土交通省が示した指定規則改正案とは自動運行装置を搭載する自動車を取り扱う検査員について、一級整備士資格が条件となるよう盛り込まれたもので、小川会長は、「働きながら1級整備士を取得するのは大変なこと」と前置きしつつ、自動車整備振興会を通じて、改正案の条件が柔軟になるよう、パブリックコメントを提出した旨を公表しました。同指定規則改正案の施行は4年先であるため、「今後どうなるかは分からない」としながらも、小川会長は、「問題意識を持つ必要があります」と会員各社に呼びかけて挨拶を結びました。

### 挨拶 | コロナ禍以降の設備投資に質的变化 (株)バンザイ 山本正明 常務取締役 営業統括本部長 (現・常勤監査役)



バンザイの山本正明常務取締役は設備投資の質が新型コロナウイルスのパンデミックを挟んだ前後で変化しているとの実感を盛り込み、挨拶を行いました。コロナ禍以降の設備投資は、働き方改革、職場の環境改善、そして処遇の改善など人材を

獲得するための手段に変化している点を挙げ、現場に優しい視点による設備投資の勧めを説きました。

### 第4回定時総会

2022年にMSC 経営戦略会議と感動夢工場が合併し、4回目となる定時総会が開催されました。定款により、小川会長が総会の議長を務め、第一号議案の2024年度収支報告から第4号議案の2025年度会計収支予算(案)までの議案を審議した結果、滞りなく全ての議案が承認されました。



## 研究会テーマ「経営者が知るべき具体策」

### 講演 | 「経営者が考える次の一手」 自動車アフター業界 経営者が知るべき具体策 (株)フォーバル 事業承継支援部 部長 山田 健一 氏

今回で7回目の開催となる研究会は、主に中小企業を対象に経営コンサルティングを展開する(株)フォーバルから、事業承継支援部部長の山田健一氏が、自動車整備事業の次の一手としてM&Aによる新たな企業価値の創造をテーマに講演が行われました。

山田氏は自動車整備を巡る経営環境として、①経営の悪化②人材不足③技術革新への対応④後継者不足⑤業界に対する不信感、の「五重苦」が自動車整備業界の閉塞感を高めており、この苦境を自社で乗り切るか、それとも他社の力を借りて成長を目指すかと問いかけてきました。従来、自動車整備の事業承継は親族承継が一般的であり、それが実現しない場合、廃業を選択するケースがほとんどであるといわれてきました。ところが、近年は自動車整備業界でも第三者に経営を委ねるM&Aが増加しつつあり、山田氏は、自動車業界で公表されたM&Aの事例を挙げ、事業承継だけでなく、成長戦略としても有効なM&Aについても、事業承

継が新たな選択肢であると説きました。

M&Aを考えるうえで重要になってくるのが、企業価値であり、山田氏は株価の考え方として、時価純資産+営業権(正常収益の2-3年分)のコストアプローチの概念を挙げ、ともすると自動車整備事業者が普段把握していない自社の企業価値についての理解を訴えました。

整備業界では経営者の高齢化が進んでおり、山田氏は「早めの対応が必要である」として、日々の経営と引退からの逆算経営のハイブリッド思考が、「事業承継の道筋の見極めにおいて有効である」と語り、M&Aという事業承継が経営者の次の一手になりえるとして、講演を締めくくりました。



### ご案内 | 「オートサービスショー」の展示コンセプト (株)バンザイ 山本伸彦 営業企画開発部 次長

翌日に控えた「オートサービスショー」の見学を前に、バンザイから同社の展示コンセプトと出展商品の説明、そして見どころなどについて解説が行われました。



### 懇親会 | 柳田 昌宏社長挨拶

総会・研究会の開催後に行われた懇親会では、バンザイの柳田昌宏社長が登壇。MSC 感動夢工場のますますの発展を祈念し、挨拶しました。



### 見学 | 第38回 オートサービスショー 2025

第7回研究会の2日目は、自動車整備機械工具の展示会「オートサービスショー」を見学しました。計140小間という空前の展示面積で訴求を行ったバンザイブースを皮切りに会員各社の参加者はそれぞれ目当ての機器をつぶさに見て回り、今後の設備投資の方針と経営戦略を確認しました。



## 【eCanter用レスキューセット】EPBコントローラー JTC6350

### 電動パーキングブレーキのメンテナンス! ブレーキを簡単解除&ロック!!

- ブレーキピストンのモーターを直接動かし、ロック&解除できます。
- タイヤも外さずロック解除できるので緊急時に迅速に車両の移動ができます。
- 軽〜輸入車まで対応!モーターの作動確認、パッド交換も簡単!



※標準仕様は JTC6350 となります。  
※ eCanter 対応仕様は D-6350ECSET となります。

eCanter 用  
レスキューセット

## 非分解のキャリパーも増え 点検・車検時のメンテナンスが重要です!!

### ブレーキの取り外しが簡単!



点検・車検時の  
ブレーキのロック解除

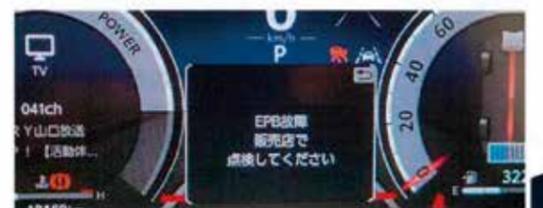
現場でレッカー作業を迅速に解除!

### ディスクキャリパー点検 サビ?モーター不良?



ピストンの固着確認  
アクチュエーターの作動確認!!

キャリパーメンテナンス作業が迅速!



EPBコンピューター不具合!!  
バッテリー上がり!! 事故!! 水没!!



ピストンを好きな位置に  
固定してグリスアップ!!

## 【CCAタイプバッテリーテスター】バッテリーテスター VAT-650BZ

### 最新の補機バッテリー規格にも対応した CCAバッテリーテスター!

- バッテリー電圧だけでなくSOC(充電状態)とSOH(健全性)の計測も可能。
- 一般的な鉛バッテリーをはじめ、CCA値を入力しての計測も可能。その他、GELバッテリーの計測にも対応。
- バッテリーの良否判定を5段階で表示します。
- プリンター内蔵で、その場で印刷が可能。



### 仕様

型式	VAT-650BZ
バッテリー種類	12V鉛バッテリー全般
バッテリー規格	JIS/EN(DIN) /SAE(BCI) /IEC/GB ※ CCA入力
測定項目	12Vバッテリーテスト エンジン始動テスト 充電システムテスト
CCA測定範囲 (CCA)	100~2,000
本体寸法 (mm)	L180×W90×H38
重量 (g)	約 480
ケーブル長 (mm)	約 1,000(クリップ含まず)

## 【4本同時メモリー表示付き】タイヤトレッドデプスゲージ TDG-415U

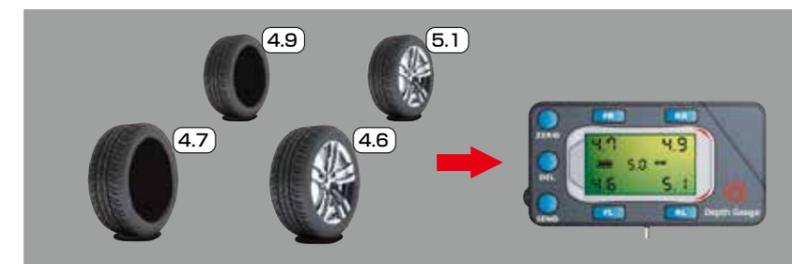
### 取り回しよく胸ポケットに収まる、小型軽量サイズ!

- タイヤの残溝を4本まで同時に記録して表示します。
- 保存されたデータは、USBポートからExcel及びWordファイルへ転送が可能。
- ネットワークPro/Light/Neo及び、スキャンツールMST-nano2と連携し、レポート出力に対応予定です。



### 仕様

型式	TDG-415U
メモリー数	4箇所
質量 (g)	56
測定範囲 (mm)	0.1~15.0
最小目盛 (mm)	0.1
本体寸法 (mm)	W90×H50×D20
出力端子	USBタイプ A(オス)



## 【誤検査防止装置】サイドスリップロックピン抜き忘れ防止装置 WG-OP-PS2U-100V

### 踏板ロック状態でのサイドスリップ検査を防止!

- 本装置にロックピンが刺さっていない時は、メーターに数値が表示されませんので、安心してサイドスリップ検査を行えます。
- 大掛かりな工事が必要無く、多くの既設機器にも容易に導入可能。



### ■適合車検機器

WG-150シリーズ	WGK-180シリーズ
WG-500シリーズ	-
WGW-1000シリーズ	WGT-1000シリーズ
ABST(E)-150シリーズ	ABST(E/M)-180シリーズ

### 仕様

型式	WG-OP-PS2U-100V
電源 (V,A)	100,3
本体寸法 (mm)	W120×D60×H120

## 【急速充電器】中容量EV用急速充電器 HFR1-15B11

### 充電方式はCHAdeMO規格に対応!

国内外の電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド車に対応しています。

- 業界最薄サイズ200mmの薄型壁掛けタイプで省スペースを実現。
- 定格出力15kWは事業所や整備工場内など各法人様の短時間での補充充電ニーズに対応。
- 22sqケーブルは取り回しが容易で、標準長さ5mをご用意(オプション:7.5mケーブル)



### 仕様

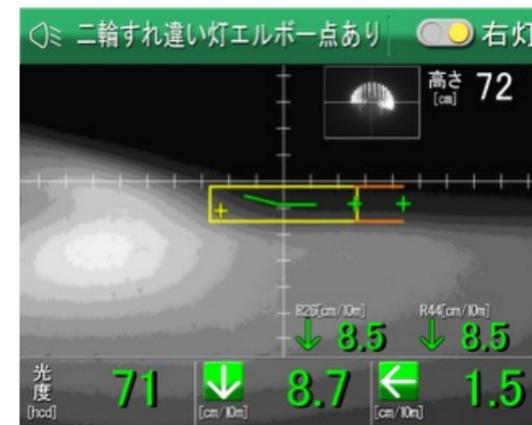
型式	HFR1-15B11
定格出力 (kW)	15
CHAdeMO	Ver.2.0
入力電圧 (V)	三相3線式 AC200
入力周波数 (Hz)	50/60
出力電圧 (V)	DC150~450
出力定格電流 (A)	37.5
本体寸法 (mm)	W700×H815×D200
質量 (kg)	約80

## 【二輪自動車計測キット】ヘッドライトテスター HT-332、HT-338

ヘッドライトテスター「HT-332/338シリーズ」の外観や構造の変更なく、メインPC内のソフトに機能(下記①~③)が追加されます。(オプション)

### ①二輪すれ違い灯/エルボー点あり

- エルボー点測定および合否判定機能
- 路面点光度測定位置:下11 (cm/10m)左23 (cm/10m)
- ランプ取付高さ1m以下/超の切替えによる、保安基準範囲と路面点位置の変更なし
- 光度32 (hcd) 以上で基準内表示
- R26/R44 (cm/10m) のカットオフライン上下位置測定と色別表示機能
- 光度諸元範囲外1~29 (hcd) および1200 (hcd) を超えた場合の点滅表示



①二輪すれ違い灯 / エルボー点あり

### ②二輪すれ違い灯/エルボー点なし

- 路面点光度測定位置:下15 (cm/10m) 左右0 (cm/10m)
- 光度32 (hcd) 以上で基準内表示
- R26/R44 (cm/10m) のカットオフライン上下位置測定と色別表示機能
- 光度諸元範囲外1~29 (hcd) および1200 (hcd) を超えた場合の点滅表示



②二輪すれ違い灯 / エルボー点なし

### ③二輪走行灯

- 光度および照射方向の測定と色別表示機能



③二輪走行灯

### ■適合車検機器

	通常商品型式	新規商品型式(二輪キット含む)
HT-332 シリーズ	HT-3321-M-3-U	HT-3321-MBK-3-U
	HT-3322-M-3-U	HT-3322-MBK-3-U
	HT-3325-M-3-U	HT-3325-MBK-3-U
	HT-3325-M-5-U	HT-3325-MBK-5-U
	HT-3326-M-3-U	HT-3326-MBK-3-U
	HT-3327-M-5-U	HT-3327-MBK-5-U
HT-338 シリーズ	HT-3328-M-3-U	HT-3328-MBK-3-U
	HT-3382-3-U	HT-3382-BK-3-U
	HT-3384-3-U	HT-3384-BK-3-U
	HT-3385-2-U	HT-3385-BK-2-U
	HT-3385-3-U	HT-3385-BK-3-U
	HT-3386-3-U	HT-3386-BK-3-U
	HT-3387-2-U	HT-3387-BK-2-U

※日本自動車機械工具協会への既設類別申請が必要です。

## 株式会社バンザイ 第99期定時株主総会及びプレス懇談会を開催



バンザイはさる6月26日にバンザイ本社会議室において第99期定時株主総会並びに取締役会と業界メディアとのプレス懇談会を開催しました。

柳田社長は「99期株主総会において、事業報告を始め、すべての議案について皆様からご承認を頂き滞りなく終了いたしましたことをご報告申し上げます。また、本総会後の取締役会において、取締役の委嘱業務が決定し、引き続き私が社長を務めさせて頂くことになりました。」と挨拶がありました。

### 第99期定時株主総会



株主総会では第99期の事業報告を始めとする第1号から第5号議案が滞りなく承認され終了しました。

99期は、売上高、営業利益ともに、対前年比を上回りました。

プラス要因につきましては、整備工場の改築や人材不足に伴う作業の効率化、環境改善や省力化した設備投資の増加などで検査業務効率化システム、車検関連機器などの販売数が増加した点が挙げられます。またホテル事業につきましては、出張や旅行者による宿泊需要の増加により年間を通して高い稼働率を維持し、2018年の

開業以来最高の実績となりました。

新中期ビジョンの後半フェーズを迎える第100期においては、DXの推進、業務効率化、働きやすい職場づくりに加え、持続可能な社会の実現に向けてESG活動にも継続的に取り組んでまいります。また、地域社会とのつながりを大切にして、より良い社会の実現に向けた取組みも積極的に進めていく方針です。今後も「信頼」を企業活動の根幹に据え、すべての皆様のご期待に応え、選ばれ続けられる企業をバンザイは目指していきます。

### 2025年度プレス懇談会

プレス懇談会では9社の媒体関係者の出席があり、柳田社長の挨拶から始まり、山田卓志取締役管理本部長が99期の事業報告、荒木龍紀常務取締役営業本部長が2025年度の基本戦略を発表し、丸村智己取締役営業副本部長が新製品8点の商品説明を行いました。懇談会後半の質疑応答ではたくさんの質問があり柳田社長をはじめ各役員が丁寧に説明を行い無事に閉幕しました。バンザイでは今後とも主要メディアを通じ皆様へたくさんの提案や発信を行ってまいります。



挨拶を述べる柳田社長



事業報告を行う山田取締役管理本部長



営業本部基本戦略を説明する荒木常務取締役営業本部長



新商品紹介を行う丸村取締役営業副本部長

# BANZAI GUIDE

## 役員のご紹介

バンザイでは令和7年6月26日に開催いたしました、第99期定時株主総会後の取締役会において、下記の通り各取締役・委嘱業務を決定し、就任いたしました。今後とも皆様のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長		柳田昌宏
常務取締役	技術部/サービス部 担当 萬歳工業株式会社 常務取締役	小池則之
常務取締役	営業本部 本部長	荒木龍紀 (昇任)
取締役	管理本部 本部長 総務部長	山田卓志
取締役	海外販売部長	木村亨
取締役	営業本部 副本部長 営業部/営業企画開発部/調達部 担当	丸村智己
取締役	管理本部 副本部長 経営企画管理室長	福島義一
常勤監査役		山本正明 (新任)
監査役		川田剛
監査役		岩知道真吾

尚、本株主総会をもって退任しました常務取締役 山本正明は、当社常勤監査役に就任し、常務取締役 金澤文男は、当社顧問および萬歳工業株式会社の常務取締役に就任いたしました。

また、同じく退任しました監査役 根本茂は、萬歳工業株式会社の理事に就任いたしました。

### 編集後記



先月開催されましたオートサービスショー2025では、全国各地から多くの皆さまにご来場いただき、誠にありがとうございました。普段なかなかお会いできない方々と直接お話することができ、改めて“顔を合わせて話すこと”の大切さを実感いたしました。また、当日は弊社キャラクター「BAN君」もご挨拶に登場し、多くの方にお声がけいただきました。BAN君と交流

して下さった皆さま、誠にありがとうございました。私にとっても大変思い出深いひとときとなりました。なお、オートサービスショーにて展示いたしました商品の一部を、本誌『SHOWROOM』にてご紹介しております。ご興味をお持ちの商品がございましたら、ぜひお気軽にお問い合わせください。厳しい暑さが続いておりますので、どうぞお身体にお気をつけて、素敵な夏をお過ごしください。

<森下>